



## 校長室だより～湘南の空～

創刊号

令和3年12月24日

### 発行に当たって

本校創立90周年当時の川井陽一校長は100周年に向けて初代赤木校長の精神に改めて注目し「校長室だより」を発行するなど、赤木イズムを推進しました。川井元校長に敬意を表するとともに、次の100年に向けて赤木イズムをより深く理解し、推進していくに当たり、私が日頃感じていること、また皆さんに考えてほしいことなどを伝えたいということで「校長室だより～湘南の空～」を発行することにしました。「湘南の空」には、湘南生が力強く未来の世界に飛翔するようという願いを込めました。保護者の方にも読んでいただければ幸いです。よろしくお願いします。

### 高い理念・目標を掲げ突き進むこと

「各カラーが『何を表現し、どう伝えるのか』これをぶれることなく追究し、各パートが協力して素晴らしいものが結実しました。高い理念・目標を掲げ、それに向かってぶれずに努力していく。これは、将来、皆さんが世界を変えていくための力になると信じています。」これは、今年の体育祭の閉会式で私が述べた話の一節である。コロナ禍で、勉強、行事、部活動が思うようにできない中、湘南生が成し遂げた成果の象徴のように思う。100周年の体育祭は、心が震えるような、まさしく日本一の体育祭だった。

令和3年10月21日の神奈川新聞「県立湘南高校創立100周年」には、湘南の先輩たちのメッセージが掲載された。

ソフトバンク球団社長の後藤芳光さん（56回）は仮装のパートリーダーの経験として「伝えたいことをしっかり伝え共感してもらい一つのゴールへ突き進む。」

指揮者の大野和士さん（53回）は「(精巧で豪華な)ゴブランの織物のような譜面を編み上げていくのが指揮者の仕事。織るのは団員だが、思い描いたイメージに向け、いかに理解してもらい『さあ、あそこへ行こう』と指し示すと、個々のエネルギーが融合されるような現象が起きる。」

高い理念・目標を掲げ、理解を得たとき、チームは力を発揮しやすいということである。

また、国際政治学者の三浦瑠麗さん（74回）は、東京大学在学中、国際政治学で門下に入った師について「説明するのが目標ではなく、理想を追いかけることが目的だということがしみこんでいた。それは、人間を中心とする世界観

から来た私にはとても居心地がよかった。」

目先の成果を追いかけるのではなく、理想を追いかけることの大切さが伝わってくる。結果として力を発揮でき、成果もついてくるに違いない。

余談だが、後藤さんは、藤沢市のある美容院で店長を務める本校卒業生と話したことがきっかけで、11月6日、1・2年対象進路講演会で講演していただいた。因みに後藤さんは私の1年先輩で同じカラー「橙」だ。また、三浦さんは、10月1日、PTA講演会で来校し『あなたは世界をどう変えますか』という問いを受け止められる湘南生が素晴らしい』と言った。

### 応援してもらえる力

私は、大学生の頃、470級という2人乗りヨットでレースをやっていた。その縁もあって現在も外洋ヨットレースをやっている。4年ほど前のあるレース後のセレモニーで冒険家白石康次郎さんの姿を見た。大きな体で笑顔を絶やさない実に感じの良い人物だ。白石さんは神奈川県立三崎水産高等学校、現在の神奈川県立海洋科学高等学校のご出身。

白石さんは令和3年2月11日に世界一過酷と言われる単独無寄港ヨットレース「ヴァンデ・グローブ」を完走した。「ヴァンデ・グローブ」は4年に一度、風だけを頼りにたった一人で、3ヶ月あまりかけて世界を一周する。達成できた人は、宇宙飛行士の数よりも少ないという。白石さんは令和2年11月8日にフランス西部の港町レ・サール・ドロンヌを出発。しかし、わずか6日目にメインセール（前後2枚のセールのうち後方の大きいセール）が破れるトラブルに見舞われたにもかかわらず、一週間かけてセールを自ら直して、完走という快挙を成し遂げ、フランスで英雄として人気を集めている。

「Number Web」の記事によると白石さんには「世の中を明るく元気にしたい」という目標があって、「それをどう表現しようか、というのがこの『ヴァンデ・グローブ』だった。その目標に引退はない。」

最新鋭の巨大なレーシングヨットを用意するには、大きな支援が必要になるが白石さんには応援してもらえる不思議な力がある。多数の応援者を巻き込みながら世界一のヨットレースに出場、完走し、人々に感動を与え、世の中を明るくした。

応援してもらえる力とは何だろうか、ぜひ考えてみたい。考えていただきたい。湘南生が未来の世界を変えるためにどうしても必要な力だから。